法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-31

【特集】日本労働遺産 ： 「日本労働運動発祥之地」石碑・惟一館煉瓦塀跡と日本労働会館

間宮, 悠紀雄 / MAMIYA, Yukio

(出版者 / Publisher)
法政大学大原社会問題研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
大原社会問題研究所雑誌 / Journal of Ohara Institute for Social Research
(巻 / Volume)
773
(開始ページ / Start Page)
23
(終了ページ / End Page)
31
(発行年 / Year)
2023-03
(URL)
https://doi.org/10.15002/00026499

【特集】日本労働遺産

「日本労働運動発祥之地」石碑・惟一館煉瓦塀跡と日本労働会館

間宮　悠紀雄

はじめに
1　ユニテリアン教会と惟一館
2　「日本労働運動発祥之地」石碑
3　惟一館煉瓦塀跡
4　労働遺産を所蔵・管理する日本労働会館
5　㈶日本労働会館の活動・発展

はじめに

2022年1月13日に開かれた日本労働ペンクラブ総会（山田計一代表）で，友愛会館敷地（東京芝）の一角に残されている「日本労働運動発祥之地」石碑と惟一館煉瓦塀跡が労働遺産第1号に認定された。

労働遺産とは日本労働ペンクラブが2022年から始めたもので，「労働遺産を発掘し，その意義と価値を認識し継承，保全することの重要性を広く社会に発信し，働く現場の歴史を後世に伝承することを目的」としている。

一般財団法人日本労働会館に贈られた認定の記念盾には，「2022年度日本労働ペンクラブ認定労働遺産　日本の近代的労働運動発祥の地に関する記念碑と遺跡　日本労働運動発祥之地（石碑）・「惟一館」（初期労働会館）煉瓦塀の一部と煉瓦」と刻まれている。

労働遺産第1号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑は，1978（昭和53）年に㈶日本労働会館と㈱友愛会館により建碑された。また，「惟一館煉瓦塀跡」は，1894（明治27）年に建設されたユニテリアン教会・惟一館の周囲に巡らされていた煉瓦塀の跡である。

1　ユニテリアン教会と惟一館

労働遺産の「発祥之地」石碑や惟一館煉瓦塀跡に触れる時，それらを生み出したユニテリアン教会・惟一館（いいつかん）についての理解が必要となる。先ずこれらについての必要な記述を行う。

明治10年代，慶應義塾の福澤諭吉や明治政府の伊藤博文・金子堅太郎らは，国民意識の統合と日本の近代化のためには「合理的で進歩的な理念」が必要と考え，それを英米で一定の勢力を持っ

ていたユニテリアンに求めた。

ユニテリアンとはキリスト教プロテスタントの一派で，正統派の三位一体説を採らずに唯一（ユニ）の神を信じ，「自由と理性と寛容を重んじ，権威への盲従を嫌う」人々であった。彼らは自由主義神学の最先端の人たちであり，代表的な人物に米国の詩人エマソンや英国の科学者ニュートン，進化論のダーウィン，近代看護を確立したナイチンゲールらがいる。日本人ではジョン万次郎や安部磯雄がユニテリアンとして知られている（八木谷涼子『知って役立つキリスト教大研究』新潮 OH! 文庫，2001 年）。

福澤や金子は最初，英国からのユニテリアン招聘に動いたが実現せず，次いで米国からの招聘をめざした。当時の米国ユニテリアンの拠点はハーバード大学であり，同大卒業生の金子堅太郎が招聘活動に取り組んだ。しかし，明治政府は 1890（明治 23）年に教育勅語を発表し，これによる国民意識の統合をめざしたため金子はユニテリアン支援から手を引くことになる。

一方，民間人で政府による一方的な国民意識の統合に批判的だった福澤諭吉は，「宗教・文化の共存，寛容，自由，合理性」などを謳うユニテリアンを，日本の近代化に欠くことのできない人々と考え，招聘に動いた。福澤は「ユニテリアンからキリスト教を受け入れたのではなく，自由主義（リベラリズム）・個人主義を受け入れ」ようとしたのである。

福澤らの招聘の動きに対応し，米国ユニテリアン協会は 1887（明治 20）年にアーサー・メイ・ナップ牧師を日本へ派遣する。そして 1889（明治 22）年にナップ牧師やクレイ・マッコーレイ牧師らが来日し，ユニテリアン・ミッションがスタートする。

彼らは翌 1890（明治 23）年，日本ユニテリアン第一教会（惟一館，東京・飯倉）を設立。1891 年には東京・京橋に移転し，東京自由神学校を設立した。なお，1905（明治 38）年に慶應義塾はマッコーレイ牧師に石灯籠を贈るが，これは現在も三田校舎の一角に保存されている。

1894（明治 27）年 3 月，ユニテリアン運動の拠点となるユニテリアン教会・惟一館（現友愛会館）が東京・芝に竣工した。竣工式では福澤諭吉，久米邦武，横井時雄らが祝辞を述べた，とされている（写真 1）。

写真 1　惟一館献堂式記念絵葉書，明治 27 年 3 月 25 日

ところで惟一館を設計したのは日本近代建築の父と呼ばれるジョサイア・コンドルである。後に建築史家から惟一館は「和洋折衷の妙ちくりんな建物」と揶揄されるが，それはコンドルがマッコーレイ牧師の要望に基づき意識的に和洋折衷の外観に仕上げたからである。

現在も多くのユニテリアン関連資料を保管しているハーバード大学にはマッコーレイ牧師の多くの手紙が残されており，その 1 通から彼がコンドルに「東西宗教文化の融合を象徴した建物を設計して欲しい」と要望していたことが分かる。

マッコーレイ牧師は 1894（明治 27）年の「惟一館献堂式全体報告・惟一館建設に当たって」の中で，「日本の人々が重大な社会的変化を経験している時に，我々は彼らを精神面で援助してきました。我々はこの世における人間の身分や地位を認め，人間の知の発達の無限の可能性，正義，

愛，雍穆など，我々の宗教的，倫理的な考えを彼らに示してきました。人の起源，生命，運命など一般的な考え方によって，人間愛が自覚されるように。一言で言えば，科学の発見において最高と認められたもの，また自由な心で見出された見解は何であれ，我々はそれを受け入れています。それが日本の人々の宗教，倫理，社会生活に影響を与えており，我々は力の及ぶ限りそれを捜し求め，現在重大な体験をしている日本の人々を保護する手段として，それを伝えています」と記している。

この手紙から米国ユニテリアン協会は一党一派のキリスト教の布教ではなく，日本に近代的で合理的な考えを伝えようとしていたことが分かる。それがユニテリアン・ミッションであり，「人間の知，正義，愛，雍穆」を伝えることであった。惟一館はその拠点として建設されたのである。

当時，明治維新後の近代化の中で，欧米から多くのキリスト教宗派が布教のためやってきていた。彼らは自らの宗派の拡大をめざし，日本各地に多くの学校や教会を建設した。いまでもキリスト教系の大学・高校・中学などが人々を集めている。

しかし，明治期のユニテリアンたちは他宗派の人々とは少し違っていたようである。彼らは布教のためにやってきたのではなく，明治の日本に科学的・合理的な自由主義をもたらそうとしたのである。故にユニテリアンは「招かれた人」と呼ばれている。

ユニテリアンの活動は，雑誌『六合雑誌』（第1号・明治13年10月～第481号・大正10年2月）や各種パンフレットの発行，日曜学校の説教などにより精力的に行われた。それはユニテリアンの理念に共感し，惟一館に結集した安部磯雄や村井知至，内ヶ崎作三郎らにより行われ，後にユニテリアン運動（「自由の確立と社会運動への参加」）と呼ばれる運動を作り上げていくことになる。

月刊誌『六合雑誌』は1880（明治13）年に東京基督教青年会から発行され，小崎弘道や植村正久らが執筆している。後にユニテリアン教会に移管され，ユニテリアンの月刊誌『六合雑誌』となり，第481号（大正10年2月）まで刊行された。『六合雑誌』については同志社大学人文科学研究所編『「六合雑誌」の研究』と『六合雑誌総目次』が参考になる。なお，友愛労働歴史館はマイクロフィルム版『六合雑誌』をデジタル化し，1万円で一般販売を行っている。

ところでキリスト教世界で圧倒的な少数派（当時も今もユニテリアンは数十万人とされる）であるユニテリアンは，多額の費用を使ってまでなぜ日本に教会を建て，活動を展開しようとしたのであろうか。

それは前述のようにマッコーレイ牧師が「人間の知の発達の無限の可能性，正義，愛，雍穆など，我々の宗教的，倫理的な考え」を，日本人や日本社会に提示することだった。そのためか惟一館講堂には副島種臣伯爵の揮毫による扁額「惟一館」と教会の標語「至誠・正義・雍穆」が掲げられた（写真2）。

写真２　副島種臣伯爵揮毫「惟一館」

標語についてマッコーレイ牧師は1894（明治27）年，「ホール竣工の標語“至誠・正義・雍穆”の上には尊敬すべき副島伯爵の手描きによる『惟一館』の名が，美しい額に納められています。日本人は，こうした歴史上良く知ら

れた，尊敬すべき人物による手描きの宝物を持つことに，特別の誇りを持っています。」と記している。惟一館は後に日本労働会館となるが，1945（昭和 20）年の東京山の手大空襲で焼失し，扁額と標語は失われている。

ユニテリアン教会に関与し，結集した人々に福澤諭吉（慶應義塾創設者），安部磯雄（早大教授，日本社会主義運動の父），村井知至（牧師，早大教授，英語学者），岸本能武太（宗教学者），戸板関子（戸板学園創立者）・武田芳三郎（牧師・政治家）夫妻，内ヶ崎作三郎（牧師，政治家），永井柳太郎（早大教授，政治家），星島二郎（弁護士，政治家），鈴木文治（労働運動家，政治家），松岡駒吉（労働運動家，政治家）らがいる。

初期のユニテリアン教会を主導した安部磯雄，村井知至，岸本能武太は同志社の同級であり，後に早大や日本女子大で教えている。また，早大で教えていた内ヶ崎作三郎と永井柳太郎は，後にユニテリアン教会の推薦で英国マンチェスター・カレッジに留学した。内ヶ崎は帰国後，統一基督教会（ユニテリアン教会）の牧師となって自由基督教会を設立している。

ユニテリアン教会解散後，人々はそれぞれの立場で「自由の確立と社会運動への参加」というユニテリアン運動を実践していった。安部磯雄のように社会主義運動を実践する人もおり，鈴木文治や松岡駒吉のように労働運動に挺身した人たちもいる。

日本の代表的なユニテリアンの安部磯雄は 1901（明治 34）年，日本で最初の社会主義政党・社会民主党（前身は社会主義研究会・社会主義協会）を創立し，日本社会主義運動の父と呼ばれた。

また，ユニテリアン教会職員の鈴木文治は 1912（大正元）年，日本で最初の近代的労働団体とされる友愛会を創立し，日本労働運動の父とされた。友愛会の流れは 1987 年に民間連合（日本民間労働組合連合会）へと発展する。このため友愛会は日本労働運動の源流とされる。

これらのことからユニテリアン教会・惟一館の後身，現在の友愛会館は日本社会主義運動の発祥の地とされ，また日本労働運動の発祥の地とも呼ばれている。

2 「日本労働運動発祥之地」石碑

日本で最初の近代的労働組合とされる友愛会は 1912（大正元）年 8 月 1 日，鈴木文治ら 15 名によりユニテリアン教会・惟一館において創立された。

友愛会は後に総同盟（戦前・戦後），総評（日本労働組合総評議会），全労（全労会議），同盟（全日本労働総同盟）へと発展し，1987 年に民間連合（日本民間労働組合連合会）に合流した。これにより友愛会は日本の民主的労働運動の源流とされ，今日でも友愛会創立を記念する会（高木剛会長）が毎年 8 月 1 日，友愛会創立を顕彰する記念行事を開催している。

友愛会創立後，教会メンバーの間に微妙な距離感が生まれた。安部磯雄やマッコーレイ牧師らは労働運動に理解があり，鈴木文治と友愛会を支援した。しかし，教会を信仰の場とする人々には友愛会への違和感があり，後に教会の今岡信一良牧師が正則学院の校長に招かれると，ユニテリアンの多くが正則学院を拠点とした。今岡牧師は戦後，日本自由宗教連盟と東京帰一協会を設立している。

友愛会から発展し，日本を代表する中央労働団体となった総同盟は，1930（昭和 5）年に惟一館の土地と建物を買収し，総同盟本部会館（日本労働会館）とする。そして翌 1931 年に会館を維持・

管理するため財団法人日本労働会館を設立した。

総同盟は 1936（昭和 11），敷地内にアパート青雲荘と友愛病院を建設し，福利厚生事業として組合員と一般人の利用に供した。これらの建物は前述のように 1945（昭和 20）年 5 月の東京山の手大空襲で焼失している。

日本労働会館は戦後 1949（昭和 24）年，総同盟会館・全繊同盟会館として再建され，1964（昭和 39）年には 9 階建ての友愛会館に建て替えられた。その一部はホテル三田会館（友愛会館 5 ～ 6 階）となり，後にホテルは隣接する独立した建物に建て替えられた。三田会館は低廉なビジネスホテルとして一般の人達にも幅広く利用された。

「日本労働運動発祥之地」石碑は 1978（昭和 53）年，友愛会館とホテル三田会館の間に設置された（写真 3）。さらに 2012 年に新たな友愛会館が建設されると，石碑は敷地の東側の一角に移された。石碑の「建碑之記」には，以下の文が刻まれている。

「大正元年（1912 年）8 月 1 日，この地に在った基督教ユニテリアン教会『惟一館』において，鈴木文治ら 15 名が『友愛会』を創立し，それ以来，我が国労働運動は継続して発展してきた。この故をもって，ここは我が国労働運動の発祥の地であり，労働運動の主流を形成してきた由緒あるところである。この歴史と伝統を継承する日本労働会館と友愛会館は，友愛会創立 66 周年を記念して建碑する。昭和 53 年 8 月 1 日」。

写真 3
日本労働運動発祥之地石碑

3　惟一館煉瓦塀跡

労働遺産に認定された惟一館煉瓦塀跡とは，1894（明治 27）年に建設されたユニテリアン教会惟一館の周囲に巡らされていた煉瓦塀の基礎部分のことである。

マッコーレイ牧師の手紙「惟一館献堂式全体報告・惟一館建設に当たって」には，「敷地は丈夫で見栄えの良い壁で囲まれており，壁は約 3 フィートの高さの石で覆ったレンガと，装飾的な鉄製の上部構造から成っている」と記されている。

このことから当初の惟一館煉瓦塀は①石で覆われていた，②上部に鉄製の装飾物があった，ことが分かる。惟一館竣工式の写真や戦前の友愛会・総同盟時代の写真からは，当時の煉瓦塀が確認できる（写真 4）。

写真 4　惟一館の当初の煉瓦塀

友愛労働歴史館（友愛会系労働組合の歴史資料館で 2012 年にオープン）は惟一館煉瓦塀について，「惟一館時代の煉瓦塀は破壊されており，その後に一部の煉瓦塀が再建されたが時期は不

明」としている。

煉瓦塀についてある建設関係者は「残っている塀の煉瓦の積み方は，雑で美しくない。戦後の再建ではないか。しかし，煉瓦は昔のもののようだ」と話している。おそらく煉瓦塀は空襲で破壊され，地上に散乱し，あるいは地下に埋もれていたのであろう。戦後，この煉瓦を掘り起こし，再使用して煉瓦塀（写真5）を再建したと考えられる。

写真５　再建された煉瓦塀

現在，「日本労働運動発祥之地」石碑は花壇の中にあり，その横には解説版が置かれて「日本社会主義運動，労働運動発祥の地，旧ユニテリアン教会・惟一館の煉瓦塀基礎部分」と記されている。

この煉瓦塀基礎部分と「日本労働運動発祥之地」石碑を所蔵・管理しているのが一般財団法人日本労働会館である。

4　労働遺産を所蔵・管理する日本労働会館

現在，石碑と煉瓦塀跡を所蔵・管理しているのが一般財団法人日本労働会館で，前身は財団法人日本労働会館である。㈶日本労働会館は総同盟会館（旧惟一館）を維持管理するために1931（昭和6）年に創立されている。

友愛会・総同盟は1912（大正元）年の創立以来，本部を旧惟一館に置いていた。このため旧惟一館は総同盟会館，労働会館などと呼ばれていたが，土地建物の所有者は別におり，1924（大正12）年頃には東京建物株式会社であった。

総同盟関東同盟会は1928（昭和3）年，惟一館の土地と建物を正式に買収して日本労働会館とすることを決議し，会館建設委員会を発足させた。その折の「日本労働会館建設趣意書」には，「日本労働会館は我等の美しき社交場！」「日本労働会館は我等の親しき学校！」「日本労働会館は我等の温かき家庭！」「日本労働会館は我等の尊き道場！」「日本労働会館は我等の巨大なる根拠地！」と記されていた。

「趣意書」はさらに「日本労働会館が竣工した暁には，組合員及其家族の人達は，其清新なる娯楽場に喜んで集まるだろう。遠隔の地の組合員は，安らかな夢を其宿泊室に結ぶことができるだろう。若き組合員は其道場に心身を鍛錬し，其図書室に正しき教養を培うだろう。あゝ其堂々たる日本労働会館は，如何に新興労働階級の大威容を示すことであろうぞ！」と続けている。会館買収にかける総同盟の意気込みが感じられる。

会館建設委員会は会館の名称を「日本労働会館」とし，建設委員会（委員長：松岡駒吉）の委員の任命，カンパ金額の決定（男子4円，婦人3円，カンパ目標は8万円）などを行った。関東同盟会はこの時，一般からのカンパ金10万円を予定し，総額18万円をめざしている。支出は18万円とし，土地買収費に5万円，三階建て総建坪約540坪で12万円，設備費1万円などである。

折からの経済不況の中，総同盟のカンパ活動は難航し，惟一館を買収したが新会館に建て替える

ことはできなかった。そこで惟一館を大改造し，1931（昭和 6）年 8 月に日本労働会館（総同盟本部会館）を完成させたのである。

この日本労働会館の土地，建物を維持管理するために 1930（昭和 5）年に作られたのが，財団法人日本労働会館である。『財団法人日本労働会館 60 年史』には「財団法人日本労働会館は，1931（昭和 6）年に日本労働総同盟（総同盟）関東同盟会を主体に建設した日本労働会館の維持管理，運営のために同年 8 月に設立された」と記されている。

会館建設の折，一般からのカンパ金活動を担ったのが日本労働会館建設後援会である。同後援会の発起人に安部磯雄，賀川豊彦，新渡戸稲造，鈴木文治，吉野作造が就任し，幅広くカンパ金を募った。前掲『60 年史』は建設後援会からの寄付金を約 9 千 9 百円余りと記しているが，現在の金銭感覚からすれば 1 億円くらいであろうか。

土地，建物の買収が済み，建設費の見通しがついた 1931（昭和 6）年 4 月，松岡駒吉の名前で財団法人設立許可申請を行った。この許可申請書に添付した「日本労働会館寄付行為」には会館名称（日本労働会館），目的（「本法人ハ労働者ノ地位ノ向上，教育，相互扶助等ノ事業……」）が記され，労働会館の維持管理並びに経営，労働者のための共済組合購買組合などの開設指導，労働者のための学校，講習会，図書館などの開設，労働者の福利増進の事業なども謳われた。

惟一館の大幅改修により完成した日本労働会館の開館式は，1931（昭和 6）年 8 月に行われた。参会者に配布された「財団法人日本労働会館設立経過報告」には，「惟一館の歴史」が次のようにまとめられている。

> 「惟一館は，自由基督教の伝道を目的とし，明治 27 年に建設されたものであるが，爾来 40 年間，日本の社会運動に非常な貢献をいたしました。我国の社会思想，社会運動は，この建物より出でたりと云うも過言ではないのであります。即ち福澤諭吉，片山潜，安部磯雄，吉野作造の諸氏は，この惟一館と密接な関係を有し，自由主義，社会民主主義，無政府主義，共産主義等々の思想も，この建物を中心に転回いたしました。我国最初の無産政党たる安部磯雄氏等の社会民主党は，明治 34 年結党直後に解散を命じられましたが，その結党準備は此処で行はれました。鈴木文治氏により大正元年 8 月，此処で創立された友愛会は，現在，日本労働総同盟として活動して居りますが，周知の如く我国労働組合の左，右，中間各派の主流は，労働総同盟より分裂したものであり，この各派組合を中心に，各無産政党が対立発生いたしました。この外，農民組合運動，労働者教育運動も，源を此処に発して居ることは，既に御承知の事と存じます。斯くの如き，由緒ある建物でありますし，現に 20 年来一貫して我労働総同盟は此処に本部を持ってきたのでありますから，之を総同盟の所有たらしむる様しばしば奔走いたしました。然し種々なる障害に依ってその実現を見るに至りませんでしたが，今回日本労働会館として事実上，総同盟の手に収められたのであります」。

5 ㈶日本労働会館の活動・発展

1936（昭和 11）年に新装なった日本労働会館は，総同盟本部会館としてスタートした。前掲『60

年史』は「1931（昭和6）年8月に発足した財団法人は，建物の維持，管理とともに積極的に事業活動に取り組んだ」，それは「労働者のための共済，福利事業，教育文化活動などであり，日本労働学校の開校，失業保険事業，日本の労働組合が経営した最初にして最後の友愛病院の開設，アパート青雲荘，大井友愛館の経営，さらに外食券食堂・神楽坂食堂の経営へと，その財団の力，すなわち総同盟活動の前進と相俟って推進していった」と記している。

労働学校については「総同盟が1921（大正10）年に鈴木文治総同盟会長を校長として開校された事業をそのまま引き継いだのである。学校は労働問題から時事問題，一般教養に及び，とくに婦人労働者のための家事，裁縫，編み物，生花なども教え，さらに男子を含めて義務教育未就学者のための特殊教育まで行った」と記録している。

また，病院については「病院は内科，外科，産婆までの総合病院であり，『医療の社会化』をモットーに実費診療を行い好評を博した」とあり，アパートメントハウス青雲荘については「アパート経営は準戦時，戦時体制の進行の中での勤労者の住宅難の緩和のために経営されたもので，好成績を挙げた」と記している。

1931（昭和6）年に満州事変が勃発し，日本は準戦時体制に突入する。財団法人日本労働会館の活動は，このような時期にスタートした。それは総同盟が1925（大正14）年の第一次分裂，1926（大正15）の第二次分裂，1929（昭和4）年の第三次分裂で思想的な統一を確立し，労働組合主義に基づく運動路線を確立した時期であった。

1936（昭和11）年7月，日本労働会館はアパート青雲荘と友愛病院を建設した。設計は新進モダニズム建築家の山口文象で，建設費用は東京府からの貸付金などで賄われた。地鎮祭には内務省社会局，警視庁，同潤会などから来賓が出席しており，当局が労働運動非合法の時代にも労働組合の福利厚生事業は認めていたことがうかがえる。

こうして1936（昭和11）年，東京芝の地にジョサイア・コンドルの惟一館・日本労働会館と，山口文象の青雲荘・友愛病院が並び立ったのである（写真6）。また，総同盟は神楽坂食堂や大井友愛館を運営し，さらに川崎市の東京製綱隣地に第二友愛病院，第二青雲荘を建設した。

総同盟の事業活動の背景には，野田醤油争議の敗北と現実主義路線の加速があった。「自律的な長期の展望に立つ事業活動を推進，展開することは日本労働運動史上で画期的なことであった。それは，ともすれば目先の，争議などの運動課題に没頭し，また，共産党系の左翼労働組合主義運動路線に影響され，事業活動を改良主義として反対する風潮の強かった時勢であった」と『日本労働会館60年史』は記している。

この頃，総同盟は地方労働運動の拠点となる11の労働会館を持っており，1933（昭和8）年以降，順次これを本部に統合し，日本労働会館分館とした。各地にあった分館は川崎分館（神奈川労働会館，神奈川県川崎市），潮田分館（潮田労働会館，神奈川県鶴見区），保土ヶ谷分館（保土ヶ谷労働会館，神奈川県

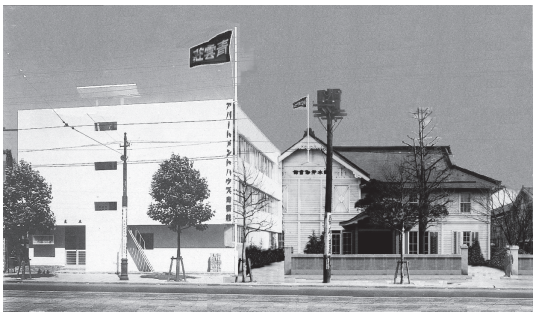

写真6　青雲荘（1936年・左）**と日本労働会館**（1937年・右）**の合成**

横浜市），平塚分館（平塚労働会館，神奈川県平塚市），川口分館（川口市労働会館，埼玉県川口町），市川分館（市川労働会館，千葉県市川市），城東分館（城東労働会館，東京市城東区），金町分館（金町労働会館，東京市葛飾区），兵庫分館（兵庫労働会館，神戸市兵庫区），西宮分館（西宮労働会館，兵庫県西宮市），因島分館（因島労働会館，広島県御調郡）である。これらは何れも太平洋戦争末期，空襲により焼失した。

戦後，総同盟会館は木造2階建ての新たな総同盟会館と全繊同盟会館として再建され，総同盟や総評，産別組織が本部を置いた。1964（昭和39）年，老朽化した総同盟会館は建て替えられ，新たに9階建ての会館となった。地下2階から5階までが日本労働会館（5～6階でホテル三田会館を経営）で，6階から9階が㈱友愛会館（総同盟系産別が出資する株式会社）の所有となり，当時はこの辺りで唯一の高層ビルであった。

写真７　友愛会館完成写真
（提供：戸田建設）

1979（昭和54）年には友愛会館隣にホテル三田会館（9階建て）が独立し，経営を始めた。さらに2012年，友愛会創立100周年を記念して新たな友愛会館（地上16階建て・地下2階。2～8階がホテル三田会館，9～16階が友愛会館）に建て替えられた（写真7）。敷地の一角には友愛会創立100周年記念モニュメントとして，3つの金属の輪を組み合わせた彫刻「暁」が置かれた。それは日本労働運動の過去，現在，未来を象徴するものとされ，またフランス市民革命以来の自由・平等・友愛の理念を表すものとされた（写真8）。

写真８　友愛会創立100周年モニュメント「暁」

こうしてユニテリアン教会・惟一館は日本労働会館・総同盟会館，総同盟・全繊同盟会館，友愛会館・三田会館を経て，現在の新友愛会館へと発展した。新しい友愛会館の8階には友愛労働歴史館（日本労働会館が運営）が置かれた。

友愛労働歴史館は①友愛会以来の民主的労働運動，②友愛会ゆかりの民主的政治運動（社会民衆党から民社党），③ユニテリアンゆかりの社会運動，に関する歴史資料館として活動している。

日本労働会館は現在，惟一館の煉瓦塀跡（明治27年建設）と「日本労働運動発祥之地」石碑（1978年建碑）を所蔵・管理しており，今回の日本労働ペンクラブによる労働遺産の認定へと繋がった。

（まみや・ゆきお　友愛労働歴史館前事務局長）